

牛久：学校周辺に見る自然

第13号 ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小）

2013年8月16日発行

＜ 夏の動物観察 ～みずべ公園 ④とんぼ ＞

ひたち野うしく小3年生と歩いた、夏のみずべ公園。今回はトンボです。



まずは、互^{たが}によく似たイトトンボのオス。違いは腹部^{ちが}の先の水色もようの位置で、第9節^{せつ}（後ろから2番目の節）にあるのが左の**アジアイトトンボ**、第8節^{せつ}（後ろから3番目の節）にあるのが右の**アオモンイトトンボ**です。（くわしくは、24年度第23号を参考に。）

水色もようが第9腹節にあるアジアイトトンボ(左)と、第8腹節にあるアオモンイトトンボ(右)のオス。



次は、はね以外は全身まっ赤な**ショウジョウトンボ**のオス。複眼^{ふくがん}（ふくがん）も含め頭部^{とうぶ}（とうぶ）全体、胸部^{きょうぶ}（きょうぶ）も腹部^{ふくぶ}（ふくぶ）もまっ赤っかです。メスは全身黄色っぽい体で別のトンボのように見えますが、よくみると体の各部の形や、はねの形、もようは同じなのです（23年度第23号を参考に）。トンボの目にはどのように映^{うつ}っているのでしょうか。頭からしっぽまで全身まっ赤な**ショウジョウトンボ**のオス。



続いて、みずべ公園ではよく見かける**コフキトンボ**。オスはシオカラトンボに似ていてよくまちがえられますが、やや小型^{せいじゆく}で成熟してくると白い粉をふきます。また複眼の色も違います。メスは、オスに似た同色型のものとはねにかっ色の帯がある異色型（おびとんぼ型）のものがいて、みずべ公園では両方見られます（23年度第23号参考）。この日は同色型しか見かけませんでしたが、産卵シーンを見ました（下右）。



シオカラトンボに似るが小型で白粉をふくコフキトンボのオス(上2枚)と、同色型でオスに似るメス(下2枚)。



こちらのみずべ公園ではおなじみの、**コシアキトンボ**のオス。こしに黄白色のもようがあり、飛んでいるとそこに何も無い（あいている）ように見えることから「腰空き（こしあき）とんぼ」と名づけられたそうです。オスはよく追いかけてっこをしているのが観察されますが、これは遊んでいるわけではなく、なわばり争いをしているのです（23年度第22号を参考に）。

枯れ草の茎で休む、コシアキトンボのオス。



こちらによく見かける**シオカラトンボ**のオス。どうですか？先ほどのコフキトンボのオスと似ていますが、体の形も違うし、頭部や複眼の色を比べると、違いがはっきりします。違いが見つかりましたか？メスは黄色い体で「**麦わらとんぼ**」などと呼ばれることもあります。これもよく見くらべてみると体の各部の形やはねの形は同じです（23年度第22号を参考に）。

オタマジャクシの池で、他のトンボとなわばり争いをする姿がよく見かけられる、シオカラトンボのオス。



最後に**ウチワヤンマ**。とまる時はだいたいいつも同じ枯れ枝にとまっているようです。なわばりなのでしょいか？なかなか近くで写真を撮れませんが、腹部の先にまるで飛行機の尾翼のように2枚開いた突起があるので、他のトンボとまちがえることはありません。体が大きいからか名前に「ヤンマ」とついていますが、ヤンマではなくサエトンボの仲間です。

【理科支援員：宮内】

腹部の先に下向きの突起が2枚開いているウチワヤンマ。